

## 外来シロアリの被害急増

外来種である「アメリカカンザイシロアリ」の被害が、全国各地で広がっている。在来種のヤマトシロアリやイエシロアリとは違い、巣が建物内部に点在するため、すべて発見しようとする壁をはがすことになるなど、駆除が困難だ。その上、近隣に被害が広がりやすいため、「不動産価格にまで影響するのでは」と関係者は危機感を募らせている。

### ▼駆除困難▲

アメリカカンザイシロアリは北米大陸原産で、体長は1センチ前後。「日本しろあり対策協会」（本部・東京）によると、1976年に東京都江戸川区で見つかったのが国内では最初とされる。その後、散発的に見つかり、2000年以降に報告例が急増。08年末現在、被害は宮城から沖縄まで全国24都府県に上る。

「日本しろあり対策協会」理事の南山和也さん（関東白蟻防除「社長」）は「これまでに見つかった地域は横浜市や神戸市、横須賀市など港町が多い。輸入された家具や建築資材などを通じて入ったのでは」と話す。生態も、在来種とは対照的だ。ヤマトシロアリやイエシロアリは湿気を好み、床下など建物の

下部を集中的に食害するが、アメリカカンザイシロアリは、名前の通り、乾いた材を好み、壁や天井裏、えさとなる木材の中などに巣を作る。繁殖力が弱いため被害の進行は遅いが、気付いた時には家全体に食害が及び、結果的に取り壊すことになる例もある。

その一例が、東京都心に近い住宅街に住む主婦の家だ。

この主婦は00年ごろ、築約20年の木造2階建ての自宅2階で、茶色い砂のようなものが小山になっているのを見つけた。最初は「土壁が落ちたのかな」としか思わなかった。だが誰も使っていない部屋なのに、何度掃除機をかけても小山はできず、羽アリを見つけて保健所に持ち込み、初めてその「砂」がアメリカカンザイシロアリのふんどと分かった。



アメリカカンザイシロアリの被害に遭った家の天井裏。柱が食い荒らされている。下に散乱している顆粒状のふんが、発見の決め手になる＝東京都内（関東白蟻防除提供）

駆除業者が調べると、窓枠の中や畳の裏でアメリカカンザイシロアリが大量に見つかった。木材の内部を食害するため、薬剤を注入し駆除した。それから毎年、業者に調査を依頼するが、いつも見つかる。07年には外壁を全部はがす大規模なリフォームをした。「800万円も掛けたのに、昨年も今年も見つかった。もうノイローゼになりそう」と嘆く。

主婦の住む地区で駆除経験を

持つ業者によると、主婦宅周辺の半径約200メートル内にある約20戸で、アメリカカンザイシロアリの食害を確認した。「調査はしていないものの、食害されていると見受けられる家も20戸以上ある」という。

### ▼地域ぐるみの対応必要▲

原産地である米国などでは、駆除のため、家全体をシートで覆ってガスで薫蒸処理することが多い。だが南山さんは「薬剤の毒性が強く、住宅密集地での使用は安全性に問題がある」「薫蒸処理しても、その前に近隣に広がっていけば、再び飛来し巣くうことは避けられない」と話す。

不動産売買の際にはトラブルになりかねない。不動産業者らは「その地域が生息地であるという情報は、隠れた瑕疵に当た

### キーボード

#### 米国ではシロアリ探知犬が活躍

「ここだよ、ワンワン！」。においてシロアリを見つける「シロアリ探知犬」を、シロアリ防除大手の「アサンテ」（本社・東京）が米国から呼び寄せ、話題になっている。

そのシロアリ探知犬の名前は「ノア」。ビーグル種の6歳のオスで、2006年に輸入した。

探知犬は、人間には判別できないシロアリの出す臭気をかぎ分け、においのする場所で立ち止まり、ほえて知らせることができる。室内や屋外を歩き回るだけで、天井裏や床下などにいるシロアリの発見が可能になる。広範囲に壁などをはがす必要がないため、北米では400匹以上が活躍しているという。

小さな穴を開けた6つのケースの1つだけにシロアリの巣くった木片を入れたデモンストレーションで、ノアは数秒で「正解」をかぎ当てた。

同社は「東京都内を中心にシロアリ調査に同行させている。食害場所の特定が難しいアメリカカンザイシロアリの発見でも、ほぼ100%の実績を上げている」と話している。

る」と指摘する。「ただし、あくまでも売り主が、近隣での発生を知った上で、その説明なしに売った場合。知らなかった場合、責任は問われない」とも。

主婦の地域では「既に数軒の住人が家を売って引っ越した」と言う。「アメリカカンザイシロアリのことは知っていたと思う。でも新しい方に説明したかどうかは分からない」。南山さ

んがもっと心配するのは、食害された家が解体され、その廃材が放置されること。「そこから大量の羽アリが飛び立ったら」。

京都大生存圏研究所の吉村剛准教授は「被害には、地域ぐるみで取り組む必要がある。今後は行政のサポートが必要になるだろう」と話している。（共同通信文化部 二好 典子）